

平成 24 年度 法科大学院（法務研究科）既修者認定試験

刑 法 問 題 紙

B日程

平成 24 年 2 月 26 日

16 : 00～17 : 30 (90 分)

(120 点)

注 意 事 項

1. 試験開始の合図があるまで、問題を開いてはいけない。
2. 刑法の問題紙は 1 ページのみである。
3. 解答用紙は、問題 1 と問題 2 の 2 枚である。解答用紙の追加は認めない。
4. 解答用紙は 2 枚ともかならず提出すること。
5. 監督者の指示に従い、すべての解答用紙に受験番号と氏名を記入すること。
6. 解答はすべて解答用紙の指定された欄に記入すること。
7. 試験終了まで退室してはいけない。

北 海 学 園 大 学

問題 1 (60 点)

建設業を営む甲は、作業員 V が契約期間半ばで帰郷すると言い出したことなどに腹を立て、洗面器の底や皮バンドで V の頭部等を多数回殴打したところ、V は恐怖心による心理的圧迫等によって、血圧が上昇し、内因性高血圧性橋脳出血を発生させて意識を失った。甲は、しばらくすれば目を覚ますだろうと考え、V を近くの資材置き場に放置して立ち去った。ところが、その後、付近を通り掛かった乙は、V が酔っ払って寝ているものと思い、面白半分に近くに落ちていた角材で、V の頭部を数回殴打し、立ち去った。その結果、V は、脳出血が原因で死亡した。なお、乙の暴行によって、V の死期が早まったことは確かであるが、どの程度のものかは判明していない。

甲の罪責について、自説を述べ、併せて反対説を批判せよ。

問題 2 (60 点)

甲は、以前 A から譲り受けた A 名義の X 銀行の預金通帳とキャッシュカードを持っていたので、独り暮らしの老人 V に電話して、V の孫である B であるかのように装って、車を衝突させて事故を起こし相手方に弁償しなければならなくなったので 50 万円を先方の口座に振り込んでほしいと依頼し、50 万円を X 銀行の A 名義の口座に振り込ませた。

後日、甲は、自分で振り込まれた金を引き出しに行くのは危険だと考え、乙に「キャッシュカードを渡すから、ATM から金を引き出してくれないか。1 万円はどうだ。」と依頼した。乙は、以前小耳に挟んだ振り込め詐欺だと思ったが、1 万円の魅力には勝てず、金の引き出しを引き受けた。そして、乙は、ATM を用いて X 銀行の A 名義口座から現金 50 万円を引き出して、これを甲に手渡した。

甲および乙の罪責を論ぜよ。